

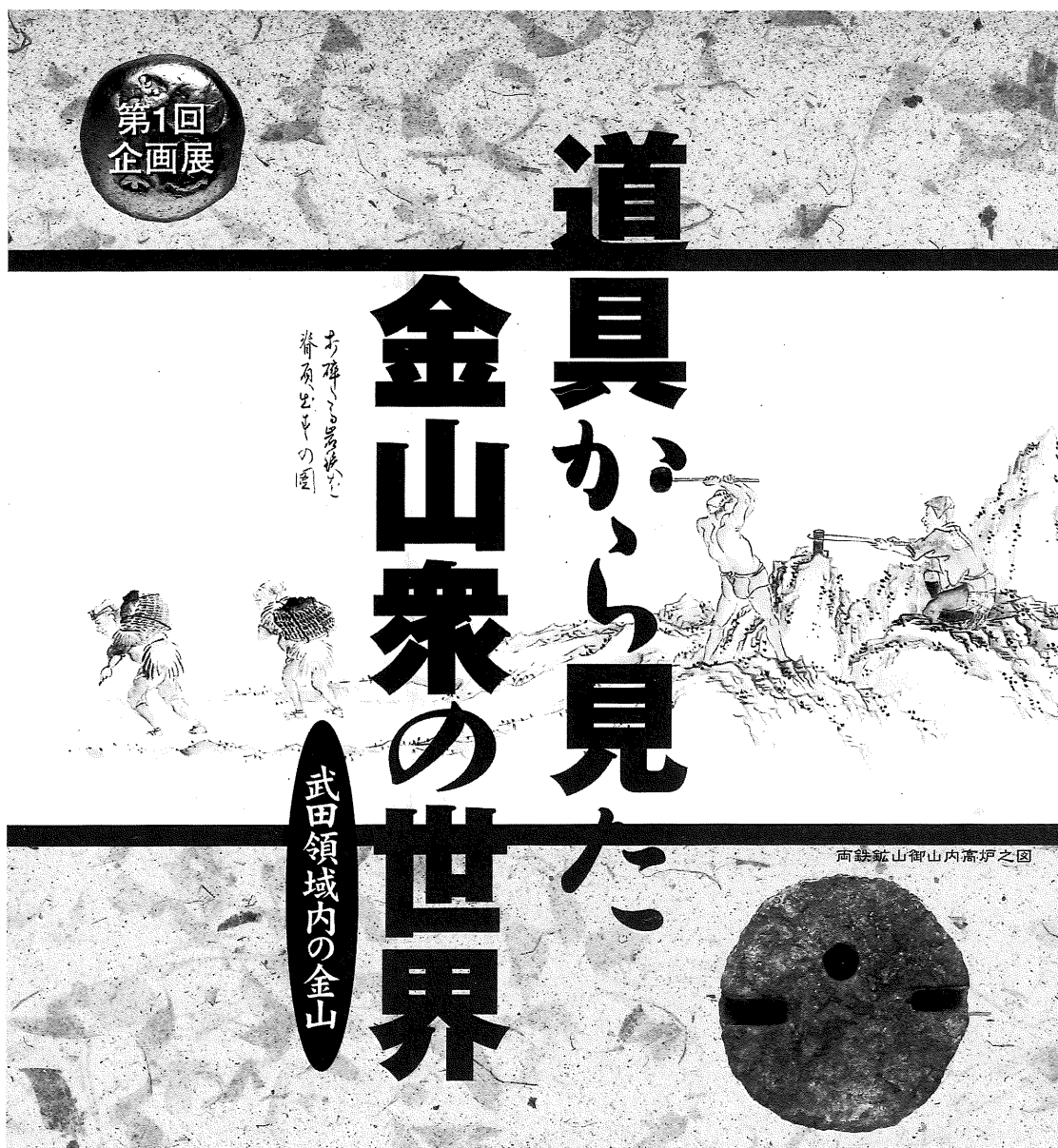
甲斐の金山から

平成11年1月21日 第7号 (第1回企画展特集号)

資料館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山資料館報



期間◆平成11年1月21日(木) ~ 2月20日(土)

主催◆甲斐黄金村・湯之奥金山資料館 / 下部町教育委員会

第1回企画展開催にあたって

わが国の金山研究は、これまで文献史学、鉱山技術史の領域のなかで進められてきましたが、近年の動向はそれに考古学による発掘調査、民俗学などによる周辺地域の民俗調査などが加わり、いわゆる学際的研究が普遍化し、ここ十年間あまりで急速に研究の発展が見られるようになって参りました。

特に山梨県内における塩山市・黒川金山と下部町・湯之奥中山金山の2つの金山遺跡の学際的総合調査・研究は、これまでの文献史学における金山研究の成果の上に新たな知見を加えるなど、大きな成果をあげるに至っています。

ちなみに2つの金山遺跡はその成果に伴い国史跡『甲斐金山遺跡／黒川金山・中山金山』に指定されています。

さて、下部町では、この湯之奥中山金山遺跡の学際的総合調査の結果を平成9年4月24日に開館した『甲斐黄金村・湯之奥金山資料館』にて公開しています。今や金山研究の全国の拠点として、また地域活性化の拠点として、全国研究者から、また地域の両面から理解され、多くの来館者を集めています。

このような動向のなかでわが国の金山研究は大きな高まりを見せてきていますが、しかし、金山研究は奥が深く現段階ではまだ多くの課題が山積し、これからが、むしろ本格的な研究を迎える段階にあるかと思われまます。

その課題の一つに当時の先端技術者であった『金山衆』の存在、その身分や性格、さらには動向などが注目されるところです。

文献に現れてくる『金山衆』が、考古学の発掘調査などで得た遺物資料や、民俗学から見た金山関係資料からみると、どのように捉えられるか？、それを今回は『武田領域内金山』からの出土・並びに伝世資料を提示することで、来館者の皆様とともに『金山衆』の姿を追いかけて、考えてみたいという主旨で第1回企画展を企画しました。

終わりに、今回の企画展開催にあたり、御協力賜りました各機関並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

甲斐黄金村・湯之奥金山資料館 館長

谷 口 一 夫

道具からみた 金山衆の世界

武田領域内の金山

わが国における金山遺跡研究は、ここ10年余の間に急速に高まりを見せてきていますが、その全体像の解明はまだ10分の1にも満たない状況だと思えます。例えば、黒川金山（山梨県）、湯之奥中山金山（山梨県）、多田銀銅山（兵庫県）、石見銀山（島根県）などのような特定な金銀銅山遺跡については、総合調査が実施され、また、佐渡相川金山においては金山奉行所跡の発掘調査が行われ、それら遺跡の全容もしくは一部を知る手がかりは得られています。他の大多数の金銀山遺跡については今なお霧に包まれた状況にあります。

武田領域内の金山遺跡につきましても、現在のところ28箇所を数えますが、実は実数についてはまだまだ増えていくと考えられます。特に砂金遺跡や柴金遺跡などは明確な数をつかむことは難しいでしょう。しかし、これから研究者の目が金山研究に向けられてきますと色々なことが解ってくると思えます。

さて、今回の企画展は表題にあります様に、まず武田領域内（最大版図）における金山遺跡において、使われてきた道具、それには川から金を採った砂金具、河岸段丘上に推積した金、文献では柴金、柴間といった言葉が使われていますがその道具、また、砂金を追い求め、その上流域に存在した露頭に現われた金鉱石を見つけ露天掘りに使われた道具、更には鉱脈を追いかけ掘った鑊押し掘り（ひおしぼり）坑から、後に間歩（まぶ）、坑道と呼ばれるようになった山金採掘にともなう道具、それに鉱石の粉成（こなし）、金の不純物を除去した「灰吹き」に使われた道具など、また、その周辺で生活していた人々や、特殊な先端技術者であった「金山衆」と言われる人たちの存在を思わせる「生活の道具」などが武田領域内金山の各地に点在し現存していることが解って参りました。それらの「道具」を今回は所蔵者の理解を頂きながら一堂に集め『第1回企画展／道具

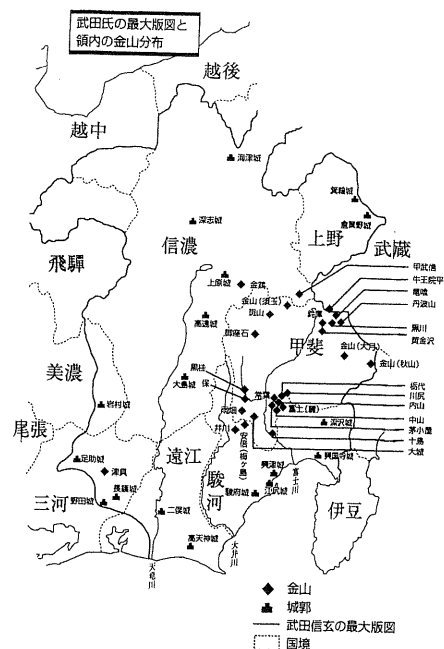
から見た金山衆の世界・武田領域内の金山』という形で公開することができましたが、一部の展示施設に置かれている道具を除き、今回の展示資料の多くは「初公開」の資料が中心となっております。

武田領域内金山からの資料は、総合学術調査が行われました「塩山市・黒川金山遺跡」、「下部町・湯之奥中山金山遺跡」ともに『国指定』遺跡ですが、詳細なデータとともに多くの資料があります。湯之奥中山金山遺跡の資料は湯之奥金山資料館において常設展示されているところではありますが、他の金山遺跡の資料はなかなか見る機会がありませんのでこの機会に是非ともご覧いただきたいと思えます。

武田領域内金山からの道具は「道具一覧表」**パ** **ネル展示** に示したとおり、必ずしも一様ではありません。資料の表示は遺跡からの出土品、遺跡からの採集品は◎印、個人の家あるいは資料館などへの収蔵品は○印、かつてこんな道具があったよという伝承だけで現物は無くなってしまっている道具は□印で示してありますが片寄りがあります。

実はこの片寄りが重要であり、過去の歴史を如実に物語るものがあります。冒頭で記述しましたように砂金・柴金、山金の遺跡の違いも道具の違いや道具の有無で解って参ります。

同じ用途に使われた道具も地域が違う金山において形態が大きく違うものがあります。これは幾つかの理由が考えられます。ひとつは、そこで操業して



武田領域内金山道具一覧表

現所在地 金山名 道具名	下部町				早川町		南部町		身延町		静岡市		富士(麓)		塩山市					飛騨市		大月市		秋山村		須玉町		韮崎市		川上村		茅野市		津具村		土肥町		新潟県	
	中	内	茅小	常	栃	川	保	雨	黒	十	大	井	安	富士(麓)	黒	竜	黄	鈴	牛	丹	大	秋	須	斑	御	甲	金	津	土	黄									
かつちや						○				○	○																												
かます						□																																	
背負いかご											○																							○					
ネコザ							○				○	○																						○					
ネコ流し具																																							
つち	◎																										◎												
たがね	◎																										◎												
矢																																							
釣ともし																																							
燈明皿																																							
丸木はしご																										◎													
ゆり板(盆)							○				○	○	○																				○	◎					
せり板	○																																						
ふね	○																																						
磨り臼・磨り石	◎		□												◎							◎	◎			◎								◎					
ひき臼	◎	◎	□			◎	◎			◎					◎				◎		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎						◎	◎				
たたき石	◎																																						
搦き臼・搦き石	◎											○																											
るつば							○				◎				◎																				○				
やっこ	◎																																						
はかり							○																													○			
陶器	◎	◎													◎				○																◎				
磁器	◎	◎													◎				○																	◎			
銅銭	◎														◎																								
銅製品(生活具)	◎														◎																								
娯楽(碁石)	◎														◎																								
板碑、祠	◎	□	◎			□	□						◎		◎																								
一字一石経石	◎	□											◎		◎																					◎			
鉄製鉱石粉砕具							○								◎																					○			

寺院祠

寺院祠

◎=出土品 ○=伝世品 □=伝承あり

いた人たちの間には固有の技術があり、その技術の違いが道具に反映されている場合、もう一つは時代の違いで当初は初源的形態から段々に機能的に発達していき、最後にはどうでもいい形で残されていくその過程における違い。

また、離れた地域にあって同じ形態の道具が存在する場合は、その要因として考えられることは、技術が人と共に移動したか、その地域の人々が他から技術だけを導入したか、ということになります。さらに考えると、共通した技術を各地域へ伝達した第三者が他にいたことも考えられます。

これは現存する道具をみると各地域とも微妙に「地域差」がありますので、広域的に道具の存在やその全容を把握することが大事なことになります。このような視点から今回の第1回企画展では武田領域内金山の道具のすべてを(複数以上ある道具は1~2点)集め、広域的に道具を見ることに意を尽くしています。

中山金山と黒川金山

この山梨県における二つの金山は、共に考古学、文献史学、民俗学、鉱山技術史などの学際的な総合調査が行われており、その成果はこれからの金山研究の「物差し」に、つまり基準になります。二つの金山は考古資料の分析から山金採掘の初源的な形態をもっていますが、類似性もあれば非類似性もあり、これがむしろ金山研究の出発点に相応しい情報を私たちに与えてくれています。

金山研究は考古学が参入する以前は文献(古文書)史学の領域でかなり研究は進んでいますが、すべて都合良く文書があるわけでありません。特に山金採掘が開始された15世紀後半~16世紀前半ころの事情が解る文書は皆無に近い状態です。16世紀後半になりますと金山衆や金山経営の姿が見える文書は若干ではありますが出てきます。これらを総合すると湯之奥中山金山は16世紀後半(1568年/永禄11年)には確実に操業されていたことが解ります。また17世

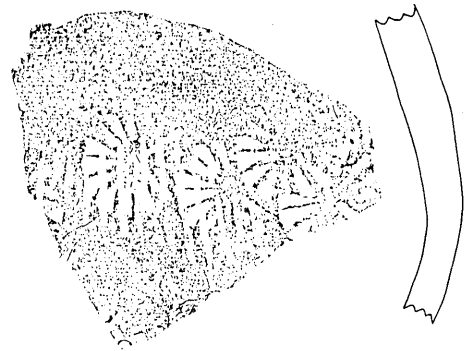
紀後半（1665年／寛文5年）には湯之奥（茅小屋・内山）金山の間歩が最盛期を迎えますが、その後間もない17世紀の終わり（1686年／貞享3年）には、茅小屋・内山の多くの金山衆が山を下ったとあります。この間118年間にわたって金山経営が行われていたことにはなりますが、1568年（永禄11）以前にある創業開始時期がどこまで遡れるかはこれからの課題です。

その経営の実態を探るには考古学、鉱山技術史などの役割になりますが、当然1500年代における鉱山道具の集成や分析が鍵を握っています。また金山に関わった金山衆や掘り子らが使っていた日用の茶碗類などからは、1500年代16世紀の遺物が採集されており、ここでの生活があったことを裏づけています。その遺物の内容からは当時の人たちの暮らしぶりが解りますが、意外にも生活レベルの高さを物語っています（これら湯之奥中山金山遺跡の遺物は本資料館に常設展示されております）。

1571年（元亀2）の「武田家印判状」における湯之奥中山金山の金山衆は「中山金山衆拾人」ということで個人名は解りませんが、その存在が明らかになり、また塩山市・黒川金山に関わる「武田家印判状」は田辺四郎左衛門等多くが個人に発給されており、よりリアルに金山衆の姿が展望できます。しかしこの黒川金山においても操業の内容を知る文書はありません。考古学、文献史学などによる総合調査の結果、黒川金山は15～16世紀の間に鉱山町が形成され、16世紀の前半に最大規模に達し、以後、漸次縮小傾向をたどりつつ17世紀前半には終了していたようです。湯之奥（中山・茅小屋・内山）金山は17世紀末ころ山を下りていますから黒川金山の方が早く撤退しています。その後、黒川の金山衆は各地へ散っていったことが、黒川型石臼などから考えられます。特に1603年（慶長8）には、甲斐国出身の大久保長安が佐渡銀山代官に、また1618年（元和4）には甲斐国春日居町鎮目出身の鎮目市左衛門惟明が佐渡奉行になっていますので、これとの関わりも考える必要があります。

さて、撤退後は色々な人達が山へ入り問掘を試みています。湯之奥金山では金山衆が山を下りた1686年（貞享3）から、江戸末の1861年（文久元年）ま

での170年間に幾度となく問掘りが試みられており、主なものだけでも8件が文書で確認できます。湯之奥村門西家の関わりもこの期間においてかなり大きかったと思われます **門西家文書は企画展に展示**。このことは黒川金山においても問掘りの願出がその後も出されており、最盛期以後の人々の動向にも興味深いものがあります。



（黒川から出土した12世紀渥美1期甕片「甲斐黒川金山より」）

さて、操業開始時期については文書等から前述したような時期、15～16世紀にはあったと予測されますが、考古学調査で黒川遺跡からは12世紀の渥美1期に属すると言われる甕の発見があり注目されます。 **企画展で展示**。この時期まで黒川金山の創業開始時期を遡らせることは無理ですが、その時代に人の動きがあったことは事実ですので、今後の研究課題です。

湯之奥型と黒川型ひき臼

このように湯之奥中山金山遺跡、黒川金山遺跡の総合学術調査の成果は、これからの他金山遺跡研究に多くの情報を提供していますが、特に両金山の鉱石を粉成（こなす）のに使われた「鉱臼」の形態的特徴は、今後わが国の金山遺跡研究の大きな要になります。鉱臼には次の種類があります。①「磨り臼」と「磨り石」ですが、これは露天掘り時代の露頭に出た風化した柔らかい鉱石を磨り潰す道具としては一番古いところに位置づけしています。形態的には縄文時代などの石皿の形態をもっていますが、鉱臼における磨り臼は、古い段階では両面を使っているのが特徴で、底に穴があくほど使いこなした例が多いようです。それに②「つき臼」と「つき石」、③「唐臼」と「叩き石」、それから④「回転式ひき臼（上臼・下臼）」がありますが特徴的なのはこの④の「回転式ひき臼」の上臼です。

この「回転式ひき臼」は、湯之奥型、黒川型、定形型に大きく3つに分類しています。湯之奥型の特徴は、上臼にある鉱石供給口が円の中心になく外へずれている特徴があります。穀臼がそのような位置に供給口を持つところから、穀臼を手本に作られた初源的な臼という位置づけをしています **常設展示 & 企画展にて展示**。黒川型の特徴は、上臼の中央へ供給口をつけています。その為下臼の中心から出ている鉄の軸が固定されませんから、上臼が不安定に回転し、供給口の内側に軸の痕跡が不定形に残っています **常設展示 & 企画展にて展示**。定形型の特徴は黒川型の供給口の中へ木製のリンズを入れ、下臼からの軸をリンズ中央の穴に固定させたもので、安定度が高い臼になっています **常設展示 & 企画展にて展示**。「回転式ひき臼」は、形態的にはこの3種類ありますが、機能的な欠陥を段々改良されてきたとも考えられますし、もう一つは金山衆の技術の違いともいえます。この「回転式ひき臼」を機能的に並べると「湯之奥型」→「黒川型」→「定形型」になります。これがそのまま編年になるかはこれからの研究課題です。

分布を見ますと「湯之奥型」は湯之奥金山に限定されています。供給口が中心からはずれている臼は南部町の十島金山から一つ、**企画展で展示**、土肥金山から一つみられますが、臼の完成度からみると供給口の穴が小さく湯之奥型の標準タイプとは少し違うようです。

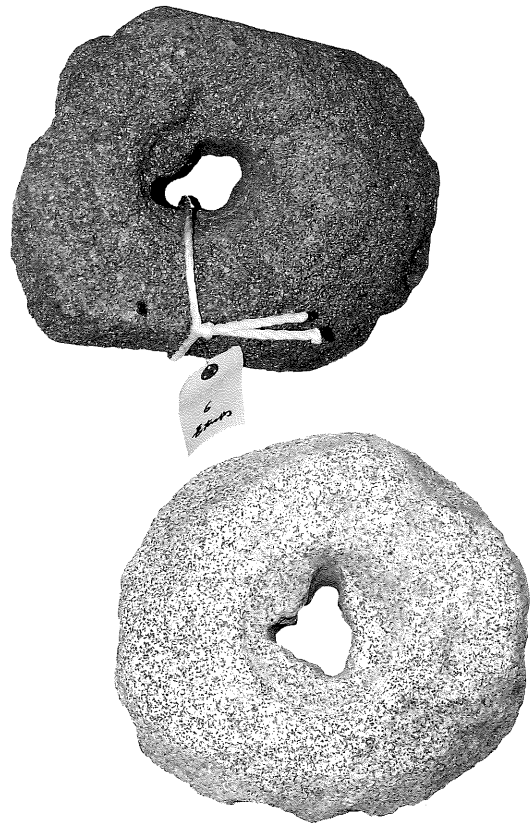
秋山村金山金山にも、湯之奥型の回転式ひき臼状態の未完成品が2個ありますが、ただし中心からずれた位置に供給口と思われる穴だけが完成されていて、軸受けも、柄溝・柄穴もなく、磨り面も凹凸が激しくひき臼として考えるには疑問が残りますが存在します。またこの秋山村金山金山からは、両面から磨った磨り臼があります **企画展で展示**。さらに秋山村金山金山遺跡に残された墓地には、表裏に磨り面を模した磨り臼状の墓標、(表)「南无阿弥陀佛」、(裏)「延享五辰年」があります。墓域の入口に立てられていたと考えられますが1748年18世紀中頃のものです。

越後黄金山から黒川型ひき臼

さて、黒川金山の鉱臼は①の「磨り臼」と「磨り

石」のセット **企画展で展示** と④のひき臼が存在しますが、回転式ひき臼は黒川型だけです。湯之奥中山・内山金山のように湯之奥型→定形型が使われたのに対して、黒川金山からは定形型はみられません。

しかも黒川型ひき臼は、近くは大月市金山金山に見られるほか、全国各地に広域的に分布していることが解ってきました。福井県大野市諸金山、岐阜県の神岡鉱山などで確認されていましたが、つい最近になり新潟県岩船郡朝日村、山北町にまたがる越後黄金山(高根・大毎・大沢の3金山の総称)からは、総数100点以上の黒川型回転式ひき臼が発見されています。萩原三雄氏の講演レジュメによると1598年(慶長3)の「伏見城蔵納目録」に、諸国の金銀山からの運上額、黄金3,397枚8両1匁1分6厘のう



(酷似する大月金山(下)と越後黄金山のひき臼)

ち約3割の、黄金1,124枚4両1匁4分2厘が越後黄金山から運上されており、佐渡黄金山の799枚5両1匁6厘をはるかに上回るものがあります。

この越後黄金山の回転式ひき臼は黒川型でも、大月金山金山に近い形態、**企画展で展示**、のものを含み総体的に非常に素朴な形状をもっており、そのうえ本当に使い込んだ痕跡が臼の至る所に残してい

ます **企画展で展示**。黒川金山の完成された黒川型ひき臼と比較すると越後黄金山の黒川型ひき臼の方がむしろ初源的に見える様ですが、大月の例もあり研究課題です。

各地に残されている砂金採集具、カッチャ、ネコザ、ネコ流し杵、ゆり板、ゆり盆など砂金採集具、**企画展で展示**、も各地の砂金採取遺跡をもつ地域

に残されています。中にはゆり板、ゆり盆などは金山の比重選鉱にも使われた可能性は十分にあります。

砂金については、昭和に入っても農業や林業のかたわらやっていたケースも多く、結構長い歴史をもっていると言えます。中世～近世においては山金を本格的にやっていた金山衆とは一線を画されていたことも考えられます。(谷口一夫)

出品(借用)資料一覧表

(順不同・敬称略)

出品資料	資料提供者	出品資料	資料提供者	出品資料	資料提供者	
磨り臼 2点	星野五俊	甲州四ッ桐一両 1点	石部 尚	挽き臼(上臼) 1点	塩山市教育委員会	
秤 1点		ひき臼(上臼) 1点	民宿 有井館	挽き臼(下臼) 1点		
カンテラ 1点		ひき臼(下臼) 1点	松井大中	磨り臼 1点		
カッチャ 2点	ひき臼(上臼) 1点	磨り石 1点				
ネコザ 1点	身延町教育委員会	ひき臼(下臼) 1点	唐 白 1点	常滑 破片ほか 16点		
ゆり盆 1点		ひき臼(上臼) 1点	赤池宏文	古 銭 30点		
ネコ流し杵 1点		ひき臼(上臼) 1点	金沢小学校	一字一石経石 9点		溶融物付着土器片 22点
砂 金 (14粒)		ひき臼(下臼) 1点		ゆり鉢 1点		刀子 2点
鉱石粉碎具(大) 1点	ヴィラ雨畑	ひき臼(上臼) 2点	南部町誌編纂室	鉄製箱 1点		
鉱石粉碎具(小) 1点		古文書 4点	門西正勝	かんざし 1点		
秤セット(分銅) 1点		カッチャ 1点	望月英男	土 鈴 1点		台 座 1点
ひき臼(上臼) 2点	ネコザ 1点	ユリバチ 1点		明染付皿破片 10点		キセル 1点
ひき臼(下臼) 1点	ユリバチ 1点	金 留 1点		渥美破片 1点		硯 1点
磨り臼 1点	金 留 1点	焼 皿 1点		砥 石 2点		徳 利 1点
るつぼ(大) 1点	吹 皿 1点	ツルハシ 1点		人骨粉		春日居町教育委員会
るつぼ(小) 1点	ツルハシ 1点	砂 金 (2.31g)		埋蔵鉛 1点		
ネコザ 1点	砂 金 (2.31g)	秤 1点		梯 子 1点		須玉町教育委員会
背負袋 2点	秤 1点	箕 1点				
金磨り石 1点	箕 1点	浜 金 (1g)				
金磨り臼 1点	浜 金 (1g)	るつぼ 1点				
ひき臼(上臼) 7点	田中真吾					
ひき臼(下臼) 3点						
たたき台 2点						

今回の企画展を開催するにあたり、次の方々に御協力いただきました。

(順不同・敬称略)

田中真吾 (新潟県・村上市)	星野五俊 (山梨県・秋山村)	望月英男 (静岡県・静岡市)	宮本 勉 (静岡県・静岡市)	北原 昭 (長野県・茅野市)	齋藤勝幸 (北海道・留萌市)
萩原三雄 (山梨県・甲府市)	堀内 亨 (山梨県・富士吉田市)	村石真澄 (山梨県・石和町)	末木 健 (山梨県・田富町)	赤池宏文 (山梨県・下部町)	石部 尚 (山梨県・下部町)
門西正勝 (山梨県・下部町)	門西愛子 (山梨県・下部町)	松井大中 (山梨県・下部町)	ヴィラ雨畑 (山梨県・早川町)	民宿河野園 (山梨県・大月市)	民宿有井館 (山梨県・須玉町)

帝京大学山梨文化財研究所
(山梨県・石和町)

山梨県県史編さん室
(山梨県・甲府市)

山梨県埋蔵文化財センター
(山梨県・中道町)

金沢小学校 (長野県・茅野市)	相川町教育委員会 (新潟県・相川町)	津具村教育委員会 (愛知県・津具村)	塩山市教育委員会 (山梨県・塩山市)	春日居町教育委員会 (山梨県・春日居町)
春日居町郷土館 (山梨県・春日居町)	身延町教育委員会 (山梨県・身延町)	身延町立自然博物館 (山梨県・身延町)	須玉町教育委員会 (山梨県・須玉町)	南部町誌編纂室 (山梨県・南部町)

公開講座のお知らせ

通算回	期 日	演 題	講 師 名
第9回	平成11年 2月21日(日)	黒川金山と日本の鉱山史	東京大学 教授 今村啓爾
第10回	平成11年 3月13日(土)	佐渡金山と佐渡奉行所	新潟県相川町教育委員会 主事 斎藤本恭

主 催 甲斐黄金村・湯之奥金山資料館
 下部町教育委員会

会 場 湯之奥金山資料館多目的ホール

時 間 午後2時～午後4時

受講料 無料

その他 ◎ 館内見学や砂金採り体験希望者には割引券を用意します。
 ◎ 気象条件や講師の都合等により日程が変更される場合がありますので、その都度資料館へお問い合わせのうえ御来館ください。

資料館友の会 会員募集

「資料館を通して学習する会」……それが金山資料館友の会です。

共に学び、自らの教養を高めるとともに、利用者の立場から資料館の活動に協力していただきます。

新たに会を組織することとしました。

多数の御入会をお持ちしています。

年会費

- ・個人会員 大人・大学生1,000円
 高校生500円
 小・中学生300円
- ・家族会員2,000円
- ・特別賛助会員5,000円

入会されますと

- ・金山資料館常設展示・企画展示を無料で観覧できます。
- ・友の会主催行事に参加できます。
- ・資料館だより及び各種情報や行事案内が送付されます。
- ・資料館刊行物が1割引で購入できます。

入会方法

資料館窓口でお申し込みになるか、郵便局で所定の郵便振替用紙にてお申し込みください。

郵便振替用紙は資料館までご請求ください。

入会申込書及び会費が資料館に到着した時点で会員登録いたします。

入会手続きが終了しますと会員証を発行します。

詳細は、金山資料館までお問合せください。

編集後記

お正月も過ぎ、せわしさも引いてきたところですが、金山資料館ではいよいよ第1回企画展が開催されました。資料館だよりの冒頭にも展示解説が掲載されていますが、資料館としても初めての大きな企

画で手探りの部分もあります。

今後の研究課題を多く残していますが、展示期間1箇月、出来るだけ多くの皆さんに見ていただき、皆さんと考えてみたいと思いますので、是非、足を運んで御覧ください。

資料館だより 第7号
 平成11年1月21日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山資料館
 山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
 TEL 0556 (36) 0015